

研究所ニュース No.98

リベラしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:<http://www.f-jinken.com>

【報告】 2019年12月26日(木)～12月29日(日)

第14回 海外人権スタディツア in ベトナム ～終わらないベトナム戦争～

に参加して

会員 高松 美保子

○12月26日（木）ドンナイ省ビエンホアへ

12月26日(木)、3泊4日のスタディツアが始まった。通訳の唯(ユイ)さんと、村山富市記念日本語学校の校長先生に迎えられ、ビエンホアに向かう。車窓にはバイクの波。子どもも含め3、4人が1台に乗っている。交通手段の7割がバイクだ。

ビエンホア空軍基地は元米空軍の枯葉剤散布機出撃拠点で、今なおダイオキシン濃度が高いホットスポットである。基地の入り口には兵士がいて、門さえ撮影禁止だった。カメラを向けると兵士がやってきて「撮影しただろ、データを消せ」という。

周りは果物、野菜、豚肉などを売る市場で活気にあふれ、ホットスポットの近くにいるということさえ忘れてしまいそうだった。

○12月27日（金）

①ドンナイ省ベトナム枯葉剤被害者協会
翌朝、ベトナム枯葉剤被害者協会(VAVA)で話を伺う。枯葉剤の影響が出ている人が現在13,000人ほどで、実際はもっと多いと推定されるとのこと。被害者へ国から補助金は出ているものの生活には充分ではなく、VAVAは資金を集め、被害者への援助をしているとのことだった。実際に2軒のお宅を訪問させていただいたが、家族で介護を

されていて、被害者の方はなかなか外へ出る機会ももてないという。



②ツーチー病院内「平和村」訪問

夕方、ツーチー病院を訪問した。近代的なベトナム南部最大の産婦人科を持つ病院で、その院内裏手の建物に「平和村」はあった。1990年に公的資金で建てられたが、現在の設備・活動費は病院が負担している。リハビリと子どもたちの学習の保障(外の社会での就労へむけて)を目的とし、今は3～38歳の35人が生活している。一人の子と気が合い抱きあうと温かかった。この命の未来や家族のことを思うと、ベトナム戦争は終わっていないと実感した。病院のスタッフの方が説明の最後に「戦争をしないことが何より大切です」と言われた。

③戦争証跡博物館

その後戦争証跡博物館を訪れた。ベトナム戦争後のダイオキシン被害の展示があつ

た。親が枯葉剤を浴びた子、終戦後1年経って枯れた林の中を裸足で歩いた子、汚染水が流れ込む川の魚を知らずに母親が食べた子、自分が食べてきた子、そして従軍した米兵の子。ベトナム戦従軍後 PTSDで苦しみながら反戦運動をしていた元米兵を思い出す。戦争は人を日常の幸せから遠ざける。

④ドクさんとの交流会

夜、枯葉剤被害者のドクさんと交流会をもつ。日本の大学で環境学を教えておられ、日本に住む予定もあるとのこと。福岡での講演会を企画したいとみんなで話した。

○12月28日（土）

①クチ・トンネル

クチ・トンネルに向かった。当時全長250kmに及ぶ地下トンネルがアリの巣のように張り巡らされていたという南ベトナム解放民族戦線の根拠地だったところだ。アリ塚に偽装した通気口、米兵は入りにくい狭い

トンネル入り口。枯葉剤をまかれ、身を隠す森を失い、民族解放を願って地下で生活し、戦った。その思いは計り知れない。

②越日友好協会の方たちと交流

最後の夜、越日友好協会の方たちと交流した。ベトナム戦争経験者の方、戦争証跡博物館館長を長く務められた女性、ホーチミン・毛沢東会談の通訳をしたという大学の先生。一人ひとりじっくり話を聞いてみたい人たちだった。そんな方たちが日本に关心を持ち友好協会として活動してくださっていることに感謝したいと思う。

○ 旅を終えて

旅を終えて、改めて思うことは、戦争はいかん！ 戦争は最大の差別だ！ ということ。微力でもできることをやっていこうと思う。
*詳しい内容は参加者で執筆を分担し報告集を作成します。

報 告 2020.1.8（水）～部落解放同盟福岡県連合会旗開き～
平和と人権を守る運動の重要性を強調

公益社団法人福岡県人権研究所所長 原田 博治

部落解放同盟福岡県連合会の2020年新年旗開きが1月8日（水）、福岡市中央区のソラリア西鉄ホテル福岡8階ホールで開かれました。福岡県、県議会、各政党、友好団体などの関係者約400人が参加して令和最初の旗開きを祝い、部落解放・人権確立に向けての取り組みを強めようと改めて誓いました。

冒頭、部落解放同盟福岡県連を代表して組坂繁之委員長があいさつ。福岡県部落差別解消推進条例が昨年3月に施行されたことに触れ、「福岡県や県議会のご尽力に対し改めて礼を言いたい。この条例をどのように活用するかが問われている。今後、関係機関と丁寧に論議しながら進めていきたい」と条例を活用しての部落差別解消への取り組みに意欲を示しました。また、この日朝、米軍によるイラン革命防衛隊司令官殺害に対しイランのミサイル報復攻撃がありました。組坂委員長はこのことを念頭に、「21世紀は人権の世紀と言われるが、残念ながら後退している。現在の最大の危機はイラン情勢。米国とイランが全面戦争に突入し第3次世界大戦になれば、人類は破滅する。平和を守れないと、人権も守れない」と述べ、平和と人権を守る運動の重要性を強調しました。

この後、小川洋県知事、栗原涉県議会議長のほか、各政党などの代表が来賓としてあいさつし、それぞれ部落差別解消に積極的に取り組む決意を表明しました。

この旗開きには、当研究所から新谷恭明理事長をはじめ理事4人が出席しました。

追 悼

中村 哲 氏に教わったこと

公益社団法人福岡県人権研究所理事長 新谷 恭明

昨年12月4日、ペシャワール会の現地代表としてアフガニスタンの復興支援活動に従事していた医師の中村哲氏が銃撃されて亡くなられました。

福岡県人権研究所は福岡部落史研究会と福岡県部落解放・人権研究所を統合して2003年6月8日に設立総会をおこないました。このとき記念講演をしていただいたのが中村哲氏でした。わが福岡県人権研究所にとって中村哲氏はその誕生を見届けていただいた方であるとともにウイングを拡げると宣言して福岡県人権研究所がよちよちと歩き始めた仄暗い道を照らしてくださった方でもあったと言えます。

私たちの研究所誕生の日に中村哲氏からいただいた講演のタイトルは「辺境で診る 辺境から見る一国際医療協力の19年」というものでした。タイトルは出版されたばかりの中村氏の著書にもとづいています。この日の講演は『リベラシオン』の前身である『部落解放史・ふくおか』111号（2003年9月）に収録して

います。その中で中村氏は人権についてとても重要なことを語っています。ひとつはイスラムの女性たちがかぶつているブルカのことです。

“それを「タリバンによる前近代的な女性差別」だと弾劾し、ブルカを脱がせることがアフガニスタンの女性解放だという人たちがいる。しかし、それは外国人が自分たちのモノサシで批判していることであって、ブルカは「現地の慣習」であって日本人が和服を着るのと変わらない。外からとやかく言うものではない。”と中村氏は言われました。

人権というのはもとより、近代ヨーロッパ、つまりはキリスト教的な土壤から生まれた考えです。そこで定義された人権が無条件に絶対的な正義なのではありません。現地の（アフガニスタンであり、日本もある）人々の歴史と文化の中で現地に見合った形で作られていくものでしょう。そういうことをアフガニスタンでの活動の中から、まさに「辺境から見る」まさにざしだったのだと思いま

す。ところで、講演をしていただいたのは2003年でした。アフガニスタンでは1999年から大旱魃に襲われ、国民の半数以上が飢餓状態にあったといいます。そして、2001年9月11日にあの同時多発テロが起き、アメリカはその報復にアフガニスタンを空爆するという暴挙に出ました。その報復攻撃で亡くなったのは女性、子ども、老人であったということです。そして、報復攻撃によってタリバン政権から国民を解放したとアメリカは豪語し、日本も便乗して加担しましたが、そのことによってアフガニスタンの何が解放されたのかと中村氏は問うていました。

現地の歴史と文化を重んじ、自分の正義を振りかざさない、人権を考えるときの要諦を私たちはその出発のときに中村哲氏から教わったのです。福岡県人権研究所の設立時に出会ったという縁をたいせつに、あらためて中村哲氏のご冥福をお祈りします。

報 告 2019/12/7(土)～12/8(日)

(公社) 福岡県人権研究所 第 206 回定例研究会 2019 年度ジェンダー部会

旧遊郭街・からゆきさん等の史跡を巡る長崎市内フィールドワーク

2019 年 12 月 7 (土)～12 月 8 日 (日) に、ジェンダー部会の野崎秀人部会長の案内で、旧遊郭街・からゆきさん等の史跡を巡る長崎市内フィールドワークを行いました。晴天に恵まれ、20 名の方が参加されました。

1 日目は、朝 10 時に JR 長崎駅に集合し、稻佐遊郭跡→稻佐国際墓地（玉菊、ガスター、ハッ橋、ラインフート）→悟真寺（伊藤小左衛門と定家）→ステッセル將軍上陸の碑→稻佐のお榮さんの道→お榮さんの平戸小屋の家跡→出島（其扇、おいね、シーボルト、瓜生野、ドゥーフ、正木、ピナテール）を見て回りました。

2 日目は、午前 9 時 30 分 路面電車「石橋停留場」に集合し、出雲町遊郭跡（惣嫁）→思案橋→見返り柳→大門跡→花月→長崎



検番→料亭青柳→丸山オランダ坂→梅園身代り天満宮（里蝶）→中の茶屋（富菊）

→愛八さんの墓→ピントコ坂（阿登倭）→寄合町三島屋跡→梅香崎天満宮（惣嫁）→唐人屋敷跡→

報 告 2020 年 1 月 11 日(土) 外国人部会 (共催)

講演 内戦を逃れても～シリア難民女性と子どもたち～

講 師：松永 晴子 さん (NPO 法人国境なき子どもたち)

シリアでは、「アラブの春」の影響を受け 2011 年政府に対する抗議運動が多発しました。アサド政権が軍事力で民間人を殺害、周知の通りシリアでは以後現在に至るまで紛争が続いている。戦場と化した国土を離れて、人口の半分近い 560 万人が現在国外

ピエル・ロチ寓居跡（お菊さん）→鎮西学院発祥の地（蝶々夫人、ピンカートン）→オランダ坂→皓台寺（楠本滝、楠本いね、道富丈吉）→鳴滝塾跡→シーボルト記念館（お滝さんとおいねさんの螺鈿合子）を見て回りました。

参加者からは「平和についてのフィールドワークをしたことはありましたが、遊女やからゆきさんのフィールドワークは初めてで、学習になりました」「まったく知らないかった長崎について知ることができました」

「外国との貿易地・出島があったことで、遊郭、遊女たちにも大きな影響を与え、長崎が独自の歴史を持ったことが今回のフィールドワークでよく分かった」「遊女に『オランダ行き』『唐行き』などあったことを初めて知りました」「先生の説明も丁寧で端的ですごくよく分かりました。今回のように、自分の足でかせいで学ぶ勉強はすごく充実していてとても楽しいです。また機会がありましたらよろしくお願ひします」といった感想が寄せられました。

フィールドワークの詳細は、後日、機関誌『リベラシオン』に掲載予定です。

(事務局)

KnK）。アジア女性センターの主催で、外国人部会は共催、福岡市（福岡市男女共同参画推進センター）が後援です。参加者は 50 人でした。

避難民の内約 67 万人がヨルダンの都市部やキャンプで生活している。松永さんが活動しているザアタリキャンプでは子どもたちとドラマや楽器などを使って情操教育をしています。移動や暴力などによる沢山のストレスや、トラウマとの戦いに苦しんでいる子どもたちに学業を続けさせるには遊びからが有効です。仕事の話をするなどキャリア教育重視、児童労働や早期結婚（15、16 歳）から子どもたちを保護するなど様々な手段による教育を継続させるための努力があります。

松永さんは、子どもたちの楽しそうな学校生活の映像とともに、家庭訪問をして子どもたちや女性たちとの対話を見せてくれました。「大事なものは？」の問いには「友だち」や「妹」と子どもらしいことを言うのに、「悲しいことは？」と聞かれると、「シリアに帰るのが難しいことを知ること」「戻るにはシリアの家が壊れすぎていること」と胸をつかれるようなやりとりもあります。

< 報 告 > 2019.11.21(木)～1.22(金)

人権資料・展示全国ネットワーク第 24 回総会（鳥取市）

○ はじめに

2019 年 11 月 21 日 (木)～22 日 (金)、鳥取市において「人権資料・展示全国ネットワーク（以下、人権ネット）第 24 回総会が開催された。今回参加は、18 団体 31 名であった。福岡県からは本研究所、田川地区人権センター、久留米市人権啓発センターが参加した。

1 日目、総会と加入館・施設からの報告、記念講演、2 日目は、フィールドワークを行った。

(1) 総会、加盟館・施設からの報告

総会では、代表あいさつの後、鳥取市長、部落解放同盟鳥取市協議会議長のあいさつが

またインタビューされた女性たちは誰も「子どもの教育だけは、できるだけさせてあげたい」「たとえ仮の家でも家の中は明るくしておきたい」と言っています。シリアの女性たちは外に出る習慣がなく、特に女性が一人で歩くということがないので DV やいろいろな問題があっても相談窓口にも行けない実情があるということでした。このキャンプの中では仕事を始める女性が出てきているなど希望も見えました。

長期にわたる避難生活の困難さを知り、また生活文化習慣の違いがあることも分かりました。難民の方々の 1 日も早い帰国、子どもたちに普通の暮らしが戻ること、基礎教育が保障されることを願います。女性たちが自立できることも（ジェンダーギャップ指数 149 カ国中 110 位の私たちが言うのもおかしいことですが）。今現在、それからどのような支援が可能か考えていきたいことです。

“相手の実情を知ることが、やがては支援につながるのではないか”というある参加者のコメントが当日話を聞いた人の総意でもあると思います。

外国人部会長 松本 京子

あり、事務局から事業報告と事業計画の提案がなされ、承認された。また、来年度の開催地、福岡も決定した。

その後、①大阪人権博物館から「リバティおおさか裁判の報告と支援のお願い」、②水俣病センター相思社から「現在の水俣病患者の状況・水俣市の状況」、福山市のホロコースト記念館から「開館 25 年を迎えるホロコースト記念館での平和教育について」の報告があつた。

(2) 記念講演

記念講演①は、鳥取市部落史研究会の坂本

敬司さんの「鳥取藩の部落史」であった。鳥取藩の池田家に残されている膨大な資料の解説をもとに、鳥取藩の被差別民の産業と芸能について報告があった。

記念講演②は、部落解放同盟鳥取県連合会書記長、坂根政代さんの「被差別体験の聞き取り調査から見えてきたもの」であった。取り組みの目的は、ア 差別の実態を明らかにする、イ 「差別禁止法」の必要性を訴える、ウ 組織の強化につなげる、エ 人権啓発に活かすである。聞き取りから、今なお存在する差別の実態が具体的に語られた。

(3) フィールドワーク

2日目は、円通寺人形芝居（扇座）を訪れた。寛政11（1799）年人形淨瑠璃が禁止されたことから、農村では人形芝居が広まった。その中の一つ、円通寺人形芝居は農村各地を

<会員の声> 「命どう宝の旅」③

～沖縄戦から基地問題に学ぶ～

（会員）廣瀧 隆太

(4) もう一つの沖縄戦

沖縄戦は、北部では別の戦争が起こっていたことはあまり知られていない。それは、「語っていない」ということを意味している。日本軍は10代半ばの少年たち約1000人からなる少年ゲリラ部隊も組織していた。当時から存在が隠されていたこの組織は、故郷を護（まも）る隊という意味で「護郷隊（ごきょうたい）」と名付けられた。護郷隊は、スパイやゲリラ戦を実行する軍人を輩出した陸軍中野学校出身者によって組織され訓練された。日本軍は、ゲリラ戦を本土防衛の対抗策として期待していた。本来、17歳以上からしか兵として招集をかけることが出来なかつた、しかし、17歳未満であつても招集できるよう「14歳以上、自らの志願であること」を条件に法令が変更（沖縄と一部の地域）。実態は志願とは程遠いものであった。校庭に集められ、サーベルもって「志願するやつ前へ出ろ」もちろん、誰も前へ出ない。先生は、「やばい、みんな前へ出ろ」と、教え子たちの背中を押しした。形式的には志願、実質的に命令であった。

少年であることで、アメリカ軍を油断させて近づき、敵陣地の情報を調べ、襲撃を行う。子どもでありながら、敵と殺し合う体験は、次第に少年たちを変える。ふるさとの親友の死を目の当たりにしても悲しみも感じず、他人を心配する余地もなくなる。ただひたすら命令を一生懸命こなすだけ。友に対する優しさも、死に対する恐怖も感じなくなつた。

幼少期の壮絶な体験は、戦後も少年たちをずっと苦しめていた。少年時代のあまりにも辛く

巡業し公演の質を飛躍的に高め、今日に至っている。現在も残る数少ない芝居座である。

○ おわりに

次回は、福岡県での開催である。すでに久留米市人権啓発センターを事務局に準備が進められている。

（事務局）

2020年度定時会員総会・記念講演は、 5月24日（日）です

日時：2020年5月24日（日）13:00 開会

場所：（公財）福岡県人権啓発情報センター
(クロバープラザ7階) 視聴覚研修室

〒816-0804 春日市原町3丁目1-7

*総会後記念講演の詳細は次号でお知らせします。

苦しい体験だったため、多くの隊員が戦後ずっと家族にも話すことができなかった。大本営は、沖縄を守る第32軍が壊滅するとわかっていた。第32軍も自分たちは国を守るために捨て石だとわかっていた。しかし駒となる兵隊がいない。捨て石の第32軍が、自分たちの捨て石として使うために少年たちを集めている。護郷隊は「捨て石の捨て石」だとも言われている。そんな現実が今まで語られることなく、閉ざされた沖縄戦にしてしまったのではないだろうか。

（5）74年前の出来事と今の辺野古

焼け野原になった沖縄の人たちには、収容所での生活が待っていた。このような歴史の中で、沖縄は一度アメリカになった。さらに、収容所での生活を終え、自宅のあった場所に帰ると、基地が建設されていたという話も少なくない。基地問題について、「基地の近くがいやなら基地がない場所に引っ越せばいい」そんな声を聞いたことがある。本当に簡単な問題でいいのだろうか？

新しく基地ができる辺野古の近くにキャンプシュワブという基地がある。そこには、弾薬庫があり、銃弾をつめることができる。浅瀬の沖縄では、大きな軍の船が停泊できないが、辺野古は水深が深く、大きな軍港が停泊できるため軍港になる。さらに、辺野古に滑走路まで作ろうとしている。新たにできる辺野古基地は総合基地になる。

辺野古基地ができれば、「普天間基地の代替施設」「辺野古移設」とされているが、普天間を返還するためには8つの条件が必要だという。条件を満たさないまま辺野古基地を建設すると辺野古に基地ができる、普天間も残るという結果にならないだろうか。

総合基地ができるから、狙われる可能性もあるとのこと。考えたくないが、隣国との関係が悪化すると、沖縄の米軍基地が狙われる可能性は大きくなる。今、沖縄、石垣、宮古…どんどん基地建設が進んでいる。基地を作り、守つてもらうような印象を受けるが、基地があることで狙われる。結局、沖縄戦で沖縄を捨て石に

したときと同じ構造になっていないだろうか。

辺野古基地の建設は着々と進んでいる。訪れた数日後には、きれいな海に土砂入れが始まり大きく揺れた。そんな矢先、沖縄では辺野古基地について県民投票が行われ、民意が示された。しかし、辺野古への土砂入れは継続した。沖縄の人たちはそのことをどう思っているのだろうか。喜んで地元の海を埋め立て、危険な基地を作りたがる人はいないはずだ。「普天間の危険を考えるとやむをえない」「工事が進んでいるから仕方ない」など、基地建設を仕方なく容認しているのではないだろうか。投票結果が無視されても何も言えない…。

日本にある米軍基地の74%は沖縄に集中している。残りの26%を負担している46都道府県は、「大変だね」と、心配しても「でもどこかに基地を置かないと日本全土が危険だから」と、誰も「自分たちが…」とはならない。沖縄の人が「そんなおかしい！」って声を上げても、「みんなで決めしたことだから仕方ないよ」と言っている。普天間を辺野古に移すことに関しても、「1つ基地減らすから新しい基地よろしくね」と、沖縄ばかりに負担させていることにみんなが気づいていないのではないだろうか？

○おわりに

辺野古で島袋文子さんというおばあに出会った。「悲惨な戦争は二度と起こさせない」「戦争につながる基地はつくらせない」と、車いすで辺野古基地反対運動をしている。優しい瞳と強い信念の裏側には、沖縄戦の教訓が背景にある。沖縄にある基地の問題は、沖縄の人だけが考える問題ではなく、日本全体で考える問題だ。沖縄戦に対する強い怒りと、辺野古基地建設を止められないやるせなさに、展望の見えない不安を感じた。しかし、車いすでも闘い続けるおばあの姿に、一人の人間として自分にできることで沖縄の問題を自分たちの問題にしたいと誓つた。

この拙い文章を読んでくださった方が一人でも、沖縄の現状を知りたいと思ってくれたら…、伝えたいと思ってくれたら…。（終わり）

事／務／局／日／誌／か／ら (2020年1月1日～2月28日)

1月

- 6月 仕事はじめ
 7火 第30回事務局会
 8水 部落解放同盟福岡県連合会旗開き(福岡市)
 11土 第9回教育部会(春日市)
 13月 九州地区部落解放史研究連絡協議会事務局会(熊本市)
 14火 第31回事務局会
 19日 編集委員会 第9回啓発部会(福智町)
 20月 部会長等会
 21火 第32回事務局会
 25土 第20回筑紫地区人権・同和教育研究大会(春日市／図書販売)
 28火 第33回事務局会 吉塚合同庁舎消防訓練
 30木 部落解放研究第54回全国集会地元実行委員会(福岡市)
 31金 2020年度研究委託プロジェクト募集締切
- 2月
 1土 第10回教育部会
 2日 第4回執行理事会
 8土 第8回部落史研究部会(兼 史・資料プロジェクト)(古賀市)
 18火 第34回事務局会
 25火 第35回事務局会

※ 住民意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務、関係機関・団体との連携・調整事務等については一部省略しています。(場所を示していないものは、研究所事務局で行っています。)

会費納入についてのお願い

* ゆうちょ銀行の「自動払込手続き」で会費納入のご協力を！

*本研究所は会員のみなさまの会費で運営されています。会費の納入についての経費の節約のためゆうちょ銀行の「自動払込」の手続きをお願いしています(払い込み手数料が少なくてすみます)。

- 手続き① ゆうちょ銀行に口座をつくる。
 手続き② 「自動払込利用申込書」を記入、押印し研究所に郵送する。
 ◇ 払込先口座の記号・番号
 【加入者名】公益社団法人福岡県人権研究所
 【口座記号】01760-9-11542
 ◇ 「自動払込利用申告書」は、郵便局にあります。

定期購読しませんか

月刊「部落解放」

人権問題・部落問題に取り組むために役立つ雑誌です。

3月申込から4月号。

月刊 660円×12冊=7,920円

増刊 1,100円×年4冊=4,400

合計12,320円／年

*申込は同封のビラで



(会員募集中)

会員募集

A会員 B会員(ブックレット会員)

公益社団法人福岡県人権研究所

【会員と会員特典】

A会員…年会費 6,000円。
 機関誌『リベラシオン』年4冊

B会員…年会費 3,000円
 ブックレット「糸の花」年1冊(他、加入時1冊)
 特典 ①ニュース「りべらしおん」の配布(年6回)
 ②当研究所主催研修会の参加費の減額
 ③当研究所所蔵の図書・史料の利用 等

Human Rights Human Rights

<問合せ>公益社団法人福岡県人権研究所 TEL 092-645-0388